

# えいご がくしゅう うんよう せつけい こうぎ 英語学習の運用設計-講義

## 1 導入

この講義の核心は、英訳を「書いたら終わり」の作業にしないことである。書く → 分類する → 検証する → 再提出する、という循環を固定すると、弱点は感覚ではなく再発率として見える。

ここで必要なのは、大量の理論ではない。まずは COL / TNS / CLS / PRP / ART / REG の 6 分類で誤りを観察し、そのあとで辞書・コーパス・定石集で根拠を取る。この順序を固定することが、個別最適化の入口である。初期診断にはミニテストを用い、定着には SRS カードを接続し、説明の圧縮には口頭要約を用いる、という役割分担もここで固定する。

## 2 中心課題

英訳の点数を上げるうえで、なぜ「もっと書く」だけでは足りず、「どの種類の誤りか」を先に固定する必要があるのか。

## 3 用語

- 誤りタグ: 誤りの型を分類する記号。bemstudy では COL / TNS / CLS / PRP / ART / REG の 6 種を使用する。
- コーパス: 実際の英語使用例を集積した資料。Collocation と Register の確認に使う。
- 間隔反復: 忘れかけた時点で再度思い出す復習法。SRS の中核となる。

## 4 方針

英訳は、次の 4 工程に分ける。

- 初稿を書く
- 誤りを 6 分類で観察する
- 疑問点を辞書・コーパス・定石集で検証する
- 再翻訳し、同型の誤りが消えたかを確認する

この講義では、特定の文法事項ではなく、この 4 工程を毎回再現できるようにすることを目標とする。

## 5 学習サイクルの実装

運用が抽象的な標語で終わらないために、1回の学習を具体的な単位へ落とす必要がある。bemstudyの英語トラックでは、1セットを「短い英訳または誤文訂正1題 + タグ付与 + 根拠確認 + 再翻訳」として扱う。

1. 初稿は時間を切って書く
2. 採点ではなく、まず誤りタグを付ける
3. 最大2点までに論点を絞って辞書・コーパス・定石集を引く
4. 根拠を1文で書いたうえで再翻訳する
5. 翌日と数日後に同型の問題を再度解く

重要なのは、1回で完全を目指さないことである。むしろ1題ごとに「何が主問題だったか」を明文化して残すことで、後日の復習が可能になる。

## 6 直感的な説明

学習が停滞するとき、しばしば起きているのは「英語が下手」ではなく、「誤りの原因が混線している」ことである。たとえば The movie is reviewed good. を見て、これを「文法が変」とだけ処理してしまうと、本質である COL が見えない。

### Incorrect

The movie is reviewed good.

[COL] 主問題は reviewed good という連語の不自然さである。

### Correct

The movie has good reviews.

[COL] have reviews と good reviews の結合が自然である。

この差は、「意味が通るか」ではなく「英語として普通に選ばれる組み合わせか」である。したがって、英訳の改善では、まず誤りを正しい柵に置く必要がある。

## 7 厳密な説明

### 7.1 1.6 分類で観察する

優先順位は、設計書どおり COL > TNS > CLS > PRP > ART > REG とする。これは「深刻な混乱ほど上位」という意味であり、複数の候補が見える場合でも、まず上位から確認する。

→ [\(定石集\) 誤りタグ体系](#) [reference](#) [english](#) [error-taxonomy](#)  
<https://study.bem130.com/reference/english/error-taxonomy/誤りタグ体系-定石集/>

## 7.2 2. 検証手段を固定する

- COL と REG は、辞書だけでなくコーパスの頻度と用例で確認する
- TNS / CLS / PRP / ART は、判断表と定石で確認する
- 判定に迷ったら、「なぜその形を選ぶのか」を1文で説明できるかを基準とする

## 7.3 3. 記録の単位を固定する

採点は、満点だけではなく再発率を追跡する。そのため、各答案について少なくとも次を残す。

- 主要タグ
- 修正前の表現
- 修正後の表現
- 根拠（辞書、コーパス、定石集のいずれか）

記録の粒度は細かすぎても続かない。そのため、毎回1題について1行で残せる形にしておくのがよい。

たとえば「COL / thinking to cancel → thinking of passing on it / コーパス」のように残せば、後日に見返したときも論点がすぐ分かる。

## 7.4 4. 復習を時間で切る

理解した直後に「できる」と感じて、数日後に再現できなければ定着していない。したがって、当日 → 1日後 → 3日後 → 7日後 → 14日後の間隔で想起する。

このときの復習は、解説を読み返すことではなく、先に自力で再翻訳することを基本とする。答えを見る前に出せるかどうか、定着の判定になる。

## 7.5 5. 採点と蓄積を接続する

運用が安定してきたら、各回の英訳を単発で終わらせず、採点軸と推移記録へ接続する。自己校正で誤りを直した後に、「どの観点で失点したか」「どのタグが再発しているか」を残すと、次回に重点化すべき束が明確になる。

→ [\(定石集\) 英訳採点ルーブリック](#) [reference](#) [english](#) [error-taxonomy](#)  
<https://study.bem130.com/reference/english/error-taxonomy/英訳採点ルーブリック-定石集/>

→ [\(定石集\) 英訳ポートフォリオ運用](#) [reference](#) [english](#) [error-taxonomy](#)  
<https://study.bem130.com/reference/english/error-taxonomy/英訳ポートフォリオ運用-定石集/>

第0章の役割は、英訳を直して終わることではなく、修正履歴を次回の行動計画へ圧縮することである。したがって、自己採点の段階から、総合演習やポートフォリオ運用へ接続する前提をここで作る。

さらに、<sup>うんようせつけい</sup>運用設計を<sup>じっせん</sup>実践へ<sup>へんかん</sup>変換するには、<sup>しんだん</sup>診断、<sup>はんぷく</sup>反復、<sup>あつしゆく</sup>圧縮の<sup>さんきのう</sup>三機能を<sup>べつべつ</sup>別々に<sup>かくほ</sup>確保するとよい。<sup>しんだん</sup>診断ミニテストは<sup>げんじょう</sup>現状の<sup>じゃくてん</sup>弱点を<sup>たんじかん</sup>短時間で<sup>ちゅうしゆつ</sup>抽出し、<sup>さいはつ</sup>SRSカードは<sup>ごよう</sup>再発し<sup>みじか</sup>やすい<sup>そうきたんい</sup>誤用を<sup>あつしゆく</sup>短い<sup>いっぶん</sup>想起単位へ<sup>きんれん</sup>圧縮する。<sup>き</sup>一分口頭要約は、<sup>ろんせつ</sup>論説や<sup>がくじゆつ</sup>学術の<sup>じょうほう</sup>情報を<sup>たも</sup>保ちながら<sup>かんけつ</sup>簡潔に<sup>さいこうせい</sup>再構成する<sup>くんれん</sup>訓練として<sup>きのう</sup>機能する。

→ **問題演習** **診断ミニテスト** [exercise](#) [english](#) [translation](#)  
<https://study.bem130.com/exercise/english/translation/診断ミニテスト-問題演習/>

→ **定石集** **SRSカード運用** [reference](#) [english](#) [error-taxonomy](#)  
<https://study.bem130.com/reference/english/error-taxonomy/SRSカード運用-定石集/>

→ **問題演習** **一分口頭要約** [exercise](#) [english](#) [register](#)  
<https://study.bem130.com/exercise/english/register/一分口頭要約-問題演習/>

## 8 最小の具体例

事務メールで「<sup>けつろん</sup>結論を<sup>さき</sup>先に<sup>い</sup>言うと、<sup>こんかい</sup>今回は<sup>みおく</sup>見送る<sup>ほうこう</sup>方向である」を<sup>えいやく</sup>英訳するとする。

**Display**  
<sup>しょこう</sup>初稿

To give you the conclusion first, we are thinking to cancel it this time.

この文では、<sup>ぶん</sup>少なくとも<sup>すく</sup>次の<sup>つぎ</sup>2点<sup>てん</sup>を確認する。<sup>かくにん</sup>

- [REG]: <sup>ごき</sup>cancel は<sup>つよ</sup>語気が<sup>にほんご</sup>強く、<sup>みおく</sup>日本語の「<sup>たい</sup>見送る」に対して<sup>かた</sup>硬すぎる
- [COL]: <sup>しぜん</sup>thinking to cancel より <sup>しぜん</sup>thinking of passing on it のほうが<sup>しぜん</sup>自然である

**Correct**

To give you the conclusion first, we are thinking of passing on it this time.

<sup>じゅうよう</sup>重要なのは、「<sup>ふしぜん</sup>不自然だから<sup>なお</sup>直す」ではなく、「<sup>しゅいん</sup>REG と <sup>さき</sup>COL の<sup>き</sup>どちらが<sup>なお</sup>主因か」を先に<sup>な</sup>決めてから<sup>なお</sup>直すことである。

## 9 見分け方

- <sup>えいやく</sup>英訳の意味は<sup>いみ</sup>通るのに<sup>と</sup>点数が<sup>てんすう</sup>伸びない<sup>の</sup>場合は、<sup>ぼあい</sup>まず<sup>うたが</sup>COL と<sup>うたが</sup>REG を<sup>うたが</sup>疑う
- <sup>なが</sup>長い文で<sup>ぶん</sup>崩れる<sup>くず</sup>場合は<sup>ぼあい</sup>CLS、<sup>ものがたりぶん</sup>物語文で<sup>じかん</sup>時間が<sup>ぼあい</sup>ずれる<sup>うたが</sup>場合は<sup>うたが</sup>TNS を<sup>うたが</sup>疑う
- <sup>ぜんちし</sup>前置詞や<sup>かんし</sup>冠詞だけを<sup>こべつ</sup>個別に<sup>あんき</sup>暗記しても<sup>かいぜん</sup>改善しにくい<sup>ぼあい</sup>場合は、<sup>いっしょ</sup>COL と<sup>みなお</sup>一緒に<sup>みなお</sup>見直す
- <sup>きろく</sup>記録が<sup>つづ</sup>続かない<sup>ぼあい</sup>場合は、<sup>か</sup>書く<sup>りょう</sup>量ではなく<sup>きろくたんい</sup>記録単位が<sup>おお</sup>大きすぎる<sup>かのうせい</sup>可能性を<sup>うたが</sup>疑う

## 10 どこまで成り立つか

この運用は、<sup>うんよう</sup>英訳・<sup>えいやく</sup>誤文訂正・<sup>ごぶんていせい</sup>自然化<sup>しぜんか</sup>リライトには<sup>つよ</sup>強いが、<sup>はつおん</sup>発音や<sup>ちょうかい</sup>聴解の問題を<sup>ちやくせつ</sup>直接<sup>ちやくせつ</sup>解くものではない。  
また、<sup>かんぜん</sup>完全に<sup>しんき</sup>新規の<sup>じゅうさくぶん</sup>自由作文では、<sup>はんだん</sup>判断の<sup>ぜんてい</sup>前提となる<sup>ぶんたい</sup>文体や<sup>ぼめん</sup>場面を<sup>さき</sup>先に<sup>せってい</sup>設定する<sup>ひつよう</sup>必要がある。

## 11 最終形

### Display

英訳の基本循環

初稿 → 誤りタグ分類 → 辞書・コーパス・定石集 で検証 → 再翻訳 → SRS

## 12 一言でいうと

英訳学習の核心は、上手に書くことではなく、誤りを正しい分類に置き、根拠を取って再提出できる状態をつくることである。

## 13 関連リンク

→ 定石集 誤りタグ体系 [reference](#) [english](#) [error-taxonomy](#)  
<https://study.bem130.com/reference/english/error-taxonomy/誤りタグ体系-定石集/>

→ 定石集 自己校正プロセス [reference](#) [english](#) [error-taxonomy](#)  
<https://study.bem130.com/reference/english/error-taxonomy/自己校正プロセス-定石集/>

→ 定石集 英訳採点ルーブリック [reference](#) [english](#) [error-taxonomy](#)  
<https://study.bem130.com/reference/english/error-taxonomy/英訳採点ルーブリック-定石集/>

→ 定石集 英訳ポートフォリオ運用 [reference](#) [english](#) [error-taxonomy](#)  
<https://study.bem130.com/reference/english/error-taxonomy/英訳ポートフォリオ運用-定石集/>

→ 定石集 SRS カード運用 [reference](#) [english](#) [error-taxonomy](#)  
<https://study.bem130.com/reference/english/error-taxonomy/SRSカード運用-定石集/>

→ 問題演習 診断ミニテスト [exercise](#) [english](#) [translation](#)  
<https://study.bem130.com/exercise/english/translation/診断ミニテスト-問題演習/>

→ 問題演習 自己採点と再翻訳 [exercise](#) [english](#) [translation](#)  
<https://study.bem130.com/exercise/english/translation/自己採点と再翻訳-問題演習/>

→ 問題演習 多ジャンル総合英訳 [exercise](#) [english](#) [translation](#)  
<https://study.bem130.com/exercise/english/translation/多ジャンル総合英訳-問題演習/>

→ 問題演習 ポートフォリオ更新ドリル [exercise](#) [english](#) [translation](#)  
<https://study.bem130.com/exercise/english/translation/ポートフォリオ更新ドリル-問題演習/>

→ 問題演習 一分口頭要約 [exercise](#) [english](#) [register](#)  
<https://study.bem130.com/exercise/english/register/一分口頭要約-問題演習/>

→ 講義 コロケーション基礎 [lecture](#) [english](#) [collocation](#)  
<https://study.bem130.com/lecture/english/collocation/コロケーション基礎-講義/>